

息を吹きかけて聖霊を与えた

ヨハネ 20 章 19-23 節

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

説教

暖かくなってきたので「鳥肌」がたつことは少なくなりました。西の人は鳥肌の事を「さぶいぼ」といいます。さぶいぼは立つではなく、出るというそうです。最近はこの同じことばを感動表現としてつかうようになってきました。意味がひっくりかえっているので眉をひそめる人たちもいるようです。音楽を聴いて鳥肌がたった、とか、映画を評して鳥肌モノなどという使い方をします。わたしも音楽を聴いていて実際に鳥肌がたったことがあるので感覚としてはわかります。

彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」ヨハネ 20:22-23

聖霊をうけた弟子たちはどんな気分になったのでしょうか。「鳥肌」が立つ感じに似ているのではないかな、と想像しました。息を吹きかけられた弟子たちはゾ〜ッとして「さぶいぼ」が出て、同時に感動したのではないのでしょうか。

ここで復活の主イエスは聖霊と同時に「赦し」の秘跡を弟子たちに与えています。人には「赦す」ということができません。凶悪な事件の犯人を赦せない、と訴える被害者を非難することは普通の人にはできません。わたしたち凡人には赦すことなどとうていできないのです。しかし、イエスは赦しなさいと弟子たちに告げます。聖霊の力を信じて赦しなさいと息を吹きかけました。

イエスの受難をめぐる記念式もきょうのペンテコステ記念でおしまいとなります。父・子・聖霊の神に感謝し、聖霊を与えられたペンテコステの記念を心に刻んでください。わたしたち人類に聖霊が贈られた恵みに思いをめぐらせましょう。
